

アイヌ・ネノアン・アイヌ ～人間らしい人間～

開催期間:2012年3月14日(水)～4月20日(金)



●関連企画(アイヌ文化教室) ※事前申込み要

- ①アイヌ料理教室 3月17日(土)10時半から(約2時間)
- ②刺繍教室 3月17日(土)15時から(約2時間)

会場:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

指導:ミナミナの会 *材料費として,①は300円,②は500円～の御負担が必要です。

※3月7日(水)16時まで、参加希望の教室、氏名、連絡先を明示のうえ、以下にお申し込みください。多数の場合は抽選のうえ、当選者のみお知らせします。

<申込先>柳原銀行記念資料館 TEL&FAX:075-371-0295

E-Mail:yanagin@mbx.kyoto-inet.or.jp

●開催記念シンポジウム・古式アイヌ舞踊

日時:4月14日(土)17時から19時半

場所:京都市下京いきいき市民活動センター3階多目的ホール

テーマ:「今に生きるアイヌ民族」

ゲスト:川村シンリツエオリパックアイヌさん

(川村カ子トアイヌ記念館館長)

川村久恵さん(マレウレウ※)

※アイヌ民族の伝統的な音楽の再生と伝承をテーマに活動する女性グループ

アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議案(第一六九回国会、決議第一号)が、我が国も賛成する中で採択された。これはアイヌ民族の長年の悲願を映したものであり、同時に、我が国の趣旨を体して具体的な行動をとることが、国連人権条約監視機関から我が国に求められている。法的には等しく国民であればならぬ我が国が近代化する過程に於いて、多数のアイヌの人々が、私たちが厳粛に受け止めなければならぬ歴史的事実を、私たちは次世代に継承していくことは、国際的な行動をとることが、我が国が二十一世紀の国際社会で、貧窮を余儀なくされたという歴史的事実を、その文化と誇りを次世代に継承していくことは、国際社会をリードしていくためにも不可欠である。G8サミットが、自然との共生を根幹とするアイヌ民族先住の地、北海道に次の施策を早急に講じるべきである。一、政府は、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」を踏まえ、アイヌの人々を日本列島北部周辺、二、政府は、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択されたことを機に、同宣言における関連条項を参照しつつ、高いレベルで有識者の意見を聞きながら、これまでのアイヌ政策をさらに推進し、総合的な施策の確立に取り組むこと。

文章:アイヌ民族を先住民族とする決議。2008年に国会の両院で採択。

写真上:アットゥシ
写真下:マキリ
ともに財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構蔵



京都市
NPO法人 崇仁まちづくりの会
柳原銀行記念資料館運営協議会



柳原銀行記念資料館
問合せ先: ☎(075) 371-0295
開館時間: 午前10時～午後4時30分
休館日: 月曜日、火曜日、祝日
入館料: 無料
交通機関: 京都駅(JR、地下鉄)から徒歩約8分
市バス205系統, 17系統「塩小路高倉」下車
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。
ホームページ
URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/yanagin/>

同じです あなたとわたしの 大切さ
発行 京都市文化市民局人権文化推進課
京都市印刷物 第234755号



アイヌ・ネノアン・アイヌ

～人間らしい人間～

開催にあたって

国籍や出身地、文化の違いなど、多様な背景を持つ人々が共に暮らしている現代社会において、お互いの違いを認めあい、様々な生き方や考え方が迎え入れられることが求められています。そこで、この度、柳原銀行記念資料館では、まだ十分に知られているとは言い難いアイヌ民族の歴史や文化等に触れ、理解を深めていただくことが重要であるとの思いから、今回の企画展を開催する運びとなりました(企画展テーマの「アイヌ・ネノアン・アイヌ」とは、アイヌ語で「人間らしい人間」を意味します)。

アイヌの人々にとって、独自の文化は自分らしく生きるための大切なものですが、近世の同化政策などでその保存、伝承が十分でなく、また、今なお偏見などがあり、正しい理解が図られているとは言い難い現状にあります。また、アイヌ民族には苦難の歴史がありますが、2008年にようやく、国会の両院で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択されました。

アイヌ民族と言えば北海道のイメージがありますが、進学、就職、結婚など様々な事情で、色々な地域で暮らしています。ここ京都も例外ではなく、決して遠い存在ではありません。

例えば、私たちの食生活に深く関わる昆布は、江戸時代、アイヌ民族との交易により、関西の食文化に大きな影響を及ぼしました。

明治時代になると、北海道開拓によってアイヌ民族は生活の基盤を奪われ困窮しました。この時代、政府の施策により多くの人々が北海道に渡りました。ここ崇仁地区(旧柳原町)からも開拓に行っていますが、開拓に行った人たちが育てられなくなった子どもを、アイヌの人たちが引き取り育てたこともあったようです。また、この京都の地で創立された全国水平社が、アイヌ民族の解放運動に影響を与えたとも言われています。

大正時代には、京都にアイヌ民族を連れてきて「アイヌ館」という興行施設で不当な扱いをしたという新聞記事も残されています。

このように、いつの時代にも私たちはアイヌの人々と関わりを持っています。京都市におきましても、人権文化推進計画に「民族としての歴史やアイヌ語、独自の伝統、文化に対する理解と認識が不足し、アイヌの人々の民族としての存在や誇りを尊重する考え方が欠如している」との認識のもと、重要な課題として位置付けています。

今回の企画展では、伝統的なアイヌ文化だけでなく現代のアーティストによる作品の展示のほか、様々なアイヌ文化を体験するイベントも企画していますので、是非御参加ください。

最後に、本展を開催するにあたり、資料等を御提供、御協力いただきました皆様に心から御礼を申し上げます。

2012(平成24)年3月



サロルン カムイ ホシビアヌ
(帰る場所を知るカムイ)

作: 結城幸司(アイヌ・アート・プロジェクト代表)

自然と人間との共生、アイヌの神話の世界を描く作品を多く制作している。



イクパスイ

(財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構蔵)

展示内容

アイヌ民族の歴史と文化
アイヌ民族からの主張
アイヌ民族の現状
現代のアイヌ文化
京都とアイヌ民族